



知られざる古墳にコーフン？！

-雪野山山麓(横山)の古墳を散策-

雪野山及びその周辺には 200 基以上の古墳が築かれています。その多くは自然の中に埋もれ、訪れる人もなくほとんど知られていません。いくつかの古墳は石室や当時のかたちを残し、隠れた歴史をひも解くことができます。1500 年以上、古墳の中で人知れず眠るいにしえ人に囲まれながら、春のひとときを過ごしてみませんか。

⑦定石古墳群

小字定石に所在する 6 世紀から 7 世紀に築かれた 15 基以上からなる古墳群です。調査はほとんどされておらず実態は明らかではありません。多くが石室の残骸だけのものですが、円墳の形をそのまま留めるものや、横穴式石室が完全な状態で残るものもみられ当時の古墳の姿を知ることができます。

⑥支那土神社跡とまぼろしの村

昭和時代まで小さな祠がありましたが、現在は石碑のみが残っています。この神社は、竜王町の苗村神社三十三年式年大祭の記録によれば品戸(または品堂)村の神社であると記されています。この品戸村は、横山町の出屋敷と言われており、明治には地名のみが残り、忽然と消えたまぼろしの村です。

⑤火打谷古墳群

火打谷という支谷の両斜面に築かれた 6 世紀から 7 世紀に築かれた 10 基からなる古墳群です。調査は行われておらず壊れているものが多いですが形状は円墳で、横穴式石室を持つもの一般的な後期古墳と考えられています。

④香積寺跡

山号は、階戸山(志那土山)で、臨済宗永源寺派の寺院でした。創基は和同年間(708-714)で僧円通が開いたと伝わっています。元は安吉(あぎ)山千坊のうちの志那土山十二坊の本坊と言われています。横山町の櫛神社には大般若経が伝来し、うち明徳元(1390)年階戸山香積寺住職梅巖が書写したものが残っています。永禄の兵火(1560 年代)に遭い本尊観世音のみ残り小堂に安置されましたが、明治以降衰え、昭和 28 年豪雨のため山崩れが起き廃寺となりました。蒲生西国の札所で、ご詠歌「あらし吹く四方の山々雲たれて香につもる庭の白雪」が残ります。また、この周辺からは古代寺院・雪野寺跡の瓦が出土しており瓦窯の営まれたと考えられています。

③天狗前古墳群

天狗山に築かれた 6 世紀のおわりから 7 世紀のはじめに築かれた 10 基からなる古墳群です。多くが円墳で石室の構造が羨道(入口)と玄室(遺体が葬られた部屋)の境が階段状になった特殊なもので、湖東地方に移住した渡来系氏族の墓ではないかと言われています。多くが名神高速道路建設によって壊されましたが、残る 2 基が公園整備され、石室の内部を見ることができます。

①山の神

山の神は、村の 1 年の初めに行われる神祭り行事です。横山町では 1 月 4 日から 5 日に行われ、神体を松で男神と女神が作られ祭場で交わる儀式が行われます。この神事が終わると「山開き」となり、その年の野良仕事(農・山作業)を始める合図となります。

②巨石群

雪野山は火砕流が固まって形成された溶結凝灰岩の一種で湖東流紋岩と呼ばれる岩石で覆われています。この石は加工しやすく古墳の石室や葺石の石材に使用されており、石の産出が山域や周辺に多くの古墳が築かれた要因のひとつでもあります。天狗山には高さ 5 メートルを超す巨石が立ち聳え神秘的な雰囲気醸し出しています。

